

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
「人と情報のエコシステム」研究開発領域
平成 28 年度採択プロジェクト企画調査事後評価報告書

平成 29 年 4 月 14 日
領域総括 國領二郎

1. 研究代表者：松浦和也（秀明大学学校教師学部 専任講師）

2. 課題名：高度情報社会における責任概念の策定

3. 期間：平成 28 年 11 月～平成 29 年 3 月

4. プロジェクト企画調査の概要：

ある人間の判断が他者や社会に害悪を与えたとき、その人間に責任を求めることは自然なことである。では、ある人工知能の判断が害悪を与えたとき、誰に責任を求めるべきか。その開発者か、使用者か、または人工知能自体か。あるいは、人工知能の場合は誰かに責任を求めること自体が不適切なのか。

本企画調査はこの問いに説得力ある返答を与えるために、今までの責任概念の理解に基づきつつも、今後の高度情報社会でも基盤となるような責任概念を提示することを目論むものである。すなわち、現行の法律や教育、およびこれまでの思想史の中で形成された責任概念の多様性を浮き彫りにし、その成果から人工知能開発の現状を照射することで、情報技術の時代に相応しい「責任」のとらえ方の提案を目指したものである。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標達成状況

情報技術者との交流が実施され、来年度にむけての研究体制も再設計されており、プロジェクト企画調査の目標は概ね達成されたと考えられる。特に、従来対象としていた責任概念だけではなく、新たな対象（責任、所有、判断の正当性、応報）が明らかになったことは重要な展開であったと思われる。

一方で今回の短期間での調査においては致し方のないことではあるが、情報技術の専門家の一部との意見交換を行ったにすぎず、専門家の間でも様々な意見があるということ認識する必要がある。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けた準備状況

短期間ながら情報技術の専門家との意見交換を含めた勉強会を精力的に実施しており、プロジェクト企画調査を通じて情報技術者からのインプットを得るという目標は概ね達成されたと考えるが、領域の主旨に沿った提案となるためには、更なる検討が必要であると考えます。

今回の調査では、情報技術の専門家の中の、特定の意見しか収集していないという点に十分に考慮が必要である。例えば、人工知能のチューリングテスト、強いAI／弱いAIについての認識は様々なものがあるため、それらを踏まえた上でこのプロジェクトとしてどのような理由でどのような立場を採用するかを検討する必要がある。すなわち、特定の意見に偏ることなくもう少し広く意見を聞くことができる体制を作ることが望まれる。

関連諸領域の研究を行う4つのグループ（「人文・哲学グループ」、「情報技術グループ」、「法・経済グループ」、「教育グループ」）を設定した点は評価できるものの、この4グループをどのように統括するかは構想が見えないため、来年度の提案に向けては、哲学を中心とする統括班を設定するなどの工夫が必要であると考えられる。これまでの企画調査を通じて判明した各分野の言葉遣いの違いの調査などは、異分野共同作業の基盤ともなりうるものであると考えられることから、他分野の人々にも応用できる有用な知見であるという視点を踏まえると良いのではないだろうか。

弱いAIに絞ってプロジェクトを進めることで見通しがよくなるだろうという判断もありえるが、一方で、ここに絞ることでAIの自律性という観点はかなり薄くなってしまったようにも思われる。アシスタ的なAIであれば、新たな責任概念が本当に必要なのか疑問が残るため、再考を期待したい。

また、従来対象としていた責任概念だけではなく、新たな対象（責任、所有、判断の正当性、応報）が明らかになったことは重要な展開であったと思われるものの、これらの概念関係の構造化は不十分であるため、この点に関しても更なる検討が望まれる。本領域にとって責任概念の検討は重要なテーマであるため、拡散するよりは、責任を中心として他概念を検討していく方向性で良いと思われる。

以上

<別紙：評価者一覧>

	氏名	所属・役職
領域総括	國領 二郎	慶應義塾大学 総合政策学部 教授
領域総括補佐	城山 英明	東京大学大学院法学政治学研究科 教授
領域 アドバイザー	久米 功一	東洋大学経済学部総合政策学科 准教授
	河野 康子	一般社団法人 全国消費者団体連絡会 事務局長・代表理事
	砂田 薫	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 主幹研究員
	土居 範久	慶應義塾大学 名誉教授
	西垣 通	東京経済大学 コミュニケーション学部 教授
	信原 幸弘	東京大学大学院総合文化研究科 教授
	松原 仁	公立ほこだて未来大学 副理事長
	丸山 剛司	中央大学理工学部 特任教授
	村上 文洋	株式会社三菱総合研究所 社会 ICT 事業本部 ICT・メディア戦略グループ 主席研究員
村上 祐子	東北大学大学院文学研究科 准教授	